

活動報告

団体名	Upple
活動名	益城町テクノ仮設におけるこども会活動サポート事業
活動期間	2017年7月～2018年3月
活動の成果	<p>今回の活動では、テクノ仮設住宅に住むのべ79人のこどもたちに、9回の体験活動を提供しました。活動内容としては、大きく分けて2つあって、1つは、夏・春の「宿泊型のキャンプ」で、もう1つは「テクノ仮設での活動」です。</p> <p>テクノ仮設住宅ではのべ59人のこどもたちが参加。リピーターが多く、未就学児も参加してくれました。活動前半は季節に合わせた体験を提供（ハロウィン、運動会など）。次第にこどもたちからの要望も出るようになり、後半はこどもたちの要望に合わせて、臨機応変に活動内容を変更していきました。活動の価値は自然体験と学生による「ナナメの関係」による対話でした。こどもたちからは、「〇〇がしたい！」という声や「〇〇が不安」といった本音を吐露することも増え、日常にかかわらない外の団体、そして学生であることが「ちょっと本音言ってもいいかな？」という気持ちにさせ、こどもたちの素の姿が出ていた様子がうかがえました。2018年3月末で仮設住宅から出るこどもたちが多数いました。残るこどもの精神的な不安は増す一方で、外からの支援が減少傾向にある中、継続的なかかわりとリフレッシュの活動の必要性を感じています。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>このたびは益城町のこどもたちのための活動にご寄付をいただき、感謝申し上げます。テクノ仮設住宅は熊本地震においてできた仮設住宅の中で最大の仮設住宅です。その中の集会所は充実。そして広場もあります。でも、こどもたちのニーズに沿った「遊び場」にはなりにくく、集会所もこどもたち中心にはなりにくい現状です。そういう中、ご家族によって設立されたこども会も元の住まいの場所で入っているこども会と掛け持ちとなってしまうことによって、会費の徴収が難しく、費用面での困難さ、人出の問題などがあるって、なかなか思うように動かせないといった現状です。</p> <p>まだまだ仮設住宅での暮らしは続きます。2年が過ぎ外からの支援は激減してきています。私たちはできる限りのかかわりを続けていきます。ぜひ今後とも暖かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいいたします。</p>

（活動のようす）



